

令和5年度 小金井市立小金井第四小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

【国語・算数共通】

「文章を読んで理解する力」「自分の考えを書く力」「見通しをもつ力」を高められる授業作りを行う

2 児童の現状分析

(1) 学習状況調査(二科目とも都の平均値を上回っている中で、課題となる点)

国語	70%以上の児童が国語の重要性を理解しているものの、国語の授業が好きであると答えた児童の割合は都平均より低い20%程度となっている。単純な漢字の書き取りや読解の問題に対する正答率は都平均よりも高い。40~60字という字数制限と書くための条件が設定された短作文の問題が三問出題されているが、後半の問題になるにつれて無回答者の割合が増え、最後の短作文の無回答者は33%となった。これは都の無回答者の平均値が18%だったことを考えると非常に高い数値であり、「読む速度」「文章の理解力」「作文をする上での見通しを立てる力」「出題者の意図を理解する力」「語彙力」「書く速度」「条件に沿って書く力」「時間を意識して書く力」「集中力」といった複数の項目に対して、授業改善が必要であることを示唆している。
算数	70%以上の児童が算数の重要性を理解し、将来的に役立つということも理解しているものの、算数の授業が好きであると答えた児童の割合は都平均より低い36%となっている。単純な計算や、答えの見当がすぐに付く問題の正答率は都平均よりも高い。しかし、二題出題された「式や言葉を使って考えを書きなさい」という種類の問題の正答率は低く、特に二題目の正答率は都平均が29.5%であるのに対し本校の児童の正答率は20.4%に止まっている。これは国語科でも見られた「文章を書く力」「作文をする上での見通しを立てる力」に関連するものであり、授業内容の改善が必要である。また、小学三年生で学習する二桁÷一桁の割り算の問題では、 $66 \div 3$ という非常に単純な計算ではあるものの、問題文への理解が浅いまま解答すると非常に誤答しやすい問題であり、本校の正答率は55.9%に止まった。自分の解答を見直す力や、出題者の意図を理解しながら解く力を日頃から高められる授業を展開する必要がある。

(2) 児童・保護者アンケート(学習に関する項目)

児童アンケートでは、「宿題をしっかりと行った」「授業では自分で考えることができた」「授業中はしっかりと話をきくことができた」といった項目は、「大変そう思う」の回答が平均して50%程度おり、肯定的な回答という区分で眺めるとおよそ80~90%が「そう思う」と答えている。一方で、「ノートをしっかりと書けた」「授業は楽しくよくわかった」は「大変そう思う」が40%台の前半であり、「授業では話し合ったり発表したりした」では「大変そう思う」が40%を下回った。

保護者アンケートにおいては、「学習規律が身に付いている」という項目に対して「大変そう思う」が23%、「学校での学習内容が理解できている」が29%、「学校は家庭と連携して家庭学習の充実を図っている」が19%であり、肯定的な回答という区分で眺めるとそれぞれ61%、82%、62%となった。

保護者から見て学校での学習内容が理解できているという回答が8割を超えるのに対し、授業で話し合いや発表を行うことができたという回答する児童の割合がその半分以下と低かったことから、内容の理解のみならず、それを表現したり発信したりする授業展開が求められていると考えられる。